週刊日本株レポート（2/5～2/9）

～ 国内企業の堅調な企業決算を確認することで徐々に水準を切り上げる ～

2024年2月5日作成

1. 日米株式と円／ドルの推移

＜日本株（日経平均）＞

＜米国株（NYダウ）＞

＜円/ドル＞

（注）チャートは過去1年

	単位	2023/12/31	2024/1/31	2024/2/2	過去3年高値		過去3年安値	
		（前年末）	（前月末）	（前週末）	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	33,464.17	36,286.71	36,158.02	36,984.51	2024/1/23	24,681.74	2022/3/9
NYダウ	ﾄﾞﾙ	37,689.54	38,150.30	38,654.42	38,783.62	2024/2/2	28,660.94	2022/10/13
円/ﾄﾞﾙ	円	141.04	146.92	148.38	151.95	2022/10/21	104.41	2021/2/10

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場　先週の振り返り

～ 日米の好調な10-12月期決算を背景に上昇 ～

先週の日本株市場は、日経平均が+406.95円（+1.14%）、TOPIXが+42.03ポイント（+1.68%）となり、日米の好調な10-12月期決算を背景に上昇しました。業種別でみると、その他製品、電気・ガス業、空運業などの30業種が上昇した一方、サービス業、医薬品、パルプ・紙の3業種が下落しました。

週初29日は、米PCE（個人消費支出）がインフレの鈍化を示したことなどを受けて先々週末の米国株市場でNYダウが連日となる過去最高値を更新したことや、為替が円安ドル高に振れたことなどから上昇して始まりました。その後は、米長期金利の低下を受けて為替が円高ドル安に転じたことや、FOMC（米連邦公開市場委員会）後のパウエルFRB（米連邦準備理事会）議長の会見が3月の利下げに否定的であったことなどが下落要因となった一方、10-12月期の決算発表が本格化する中、好業績を発表した銘柄が買われたことなどが上昇要因となったことから一進一退の推移となり、週末2日は、米ハイテク大手企業の好決算や米長期金利の低下を背景に1日の米国株市場が上昇した流れを受け上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	期間	前回
2月5日	Mon	中国	財新サービス業PMI（購買担当者景気指数）	1月	52.9
		米国	ISM非製造業景況指数	1月	50.6
2月6日	Tue	欧州	ユーロ圏小売売上高（前月比）	12月	▲0.3%
		ドイツ	製造業受注（前月比）	12月	+0.3%
2月7日	Wed	日本	景気一致指数	12月	114.6
			景気先行CI指数	12月	107.6
		ドイツ	鉱工業生産（前月比）	12月	▲0.7%
		米国	貿易収支	12月	▲632億ドル
2月8日	Thu	日本	景気ウォッチャー調査現状	1月	50.7
			景気ウォッチャー調査先行き	1月	49.1
		中国	CPI（消費者物価指数）（前年比）	1月	▲0.3%
決算発表予定　他	国内	決算発表　：	2/5 大林組、日本郵船、伊藤忠、住友商、住友電工、ｷｯｺｰﾏﾝ、三菱電、ｺﾝｺﾙﾃﾞ、ﾔﾏﾄHD、JSR、ｱｽﾃﾗ薬、ｵﾑﾛﾝ、MUFG 2/6 ｴｰｻﾞｲ、三菱ｹﾐｶﾙ、三菱重、味の素、横河電、任天堂、JFEHD、島津製、ﾀﾞｲｷﾝ工、三菱商、LINEﾔﾌｰ、ﾄﾖﾀ 2/7 旭化成、三井化学、ｽｽﾞｷ、ﾃﾙﾓ、AGC、花王、協和ｷﾘﾝ、ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸ、日本製鉄、阪急阪神H、東武鉄道、ﾕﾆﾁｬﾑ、ｵﾘｯｸｽ、NTTﾃﾞｰﾀG、SBI 2/8 ﾙﾈｻｽ、東レ、清水建、ｽﾊﾞﾙ、小田急電鉄、明治HD、大成建設、NTT、ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸG、富士ﾌｲﾙﾑ、ﾆﾄﾘHD、ｾｺﾑ、ﾏｸﾄﾞHD、浜松ﾎﾄ、住友金属鉱山、ﾎﾝﾀﾞ、ﾈｸｿﾝ、日産、ﾀﾞｲﾌｸ 2/9 ｴﾈｵｽ、ﾔｸﾙﾄ、大和ﾊｳｽ、日産化、神戸製鋼所、ｾﾞﾝｼｮｰ、大日本印刷、三菱地所、資生堂、ｱｼｯｸｽ、三菱HCC、住友不動産、ｼｽﾒｸｽ、東京ｾﾝﾁ、東急、三井不、ｺｸｻｲE、ﾘｸﾙﾄH、ﾏﾂﾀﾞ、東ｴﾚｸ、いすゞ自		
	海外	決算発表　：	2/5 ﾏｸﾄﾞﾅﾙﾄﾞ、ｷｬﾀﾋﾟﾗｰ、NXPｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀｰｽﾞ 2/6 UBSｸﾞﾙｰﾌﾟ、BP、ｽﾎﾟﾃｨﾌｧｲ、ｲｰﾗｲﾘﾘｰ、ｽﾅｯﾌﾟ、ｱﾑｼﾞｪﾝ、ﾌｫｰﾄﾞ、ﾌﾟﾙﾃﾞﾝｼｬﾙ 2/7 ｳｰﾊﾞｰ、ｱﾘﾊﾞﾊﾞ、ｳｫﾙﾄ･ﾃﾞｨｽﾞﾆｰ･ｶﾝﾊﾟﾆｰ、ﾍﾟｲﾊﾟﾙ 2/8 ｱｽﾄﾗｾﾞﾈｶ、ｿｼｴﾃ･ｼﾞｪﾈﾗﾙ、ｸﾚﾃﾞｨ･ｱｸﾞﾘｺﾙ、ｼｰﾒﾝｽ、ﾌｨﾘｯﾌﾟ･ﾓﾘｽ		

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場　今週の見通し

～ 国内企業の堅調な企業決算を確認することで徐々に水準を切り上げる ～

今週の日本株市場は、国内企業の堅調な企業決算を確認することで徐々に水準を切り上げるとみます。

今週は、国内主要企業の10-12月決算が本格化します。先週までに10－12月期決算を発表したTOPIX構成銘柄の約4割について、業種間での差がみられるものの総じてみれば堅調な業績が示されました。2023年度通期の業績見通しも、上方修正する企業がやや優勢な結果となっており、今週も堅調な企業業績が確認されるとともに、企業のコーポレートガバナンス改善の動きが期待される中で、低PBR企業中心に自社株買いや増配などの発表が相い次げば、これらの銘柄の中心に株価水準を徐々に切り上げるとみます。

また、先週のFOMCではパウエルFRB議長が3月利下げに慎重な姿勢を示したものの、市場では米インフレの伸び鈍化に対する確信度は高く、いずれFRBが緩和姿勢に転換するとの期待は続いています。先週末に発表された米雇用統計が市場予想を上回る堅調な内容となる中で、米景気の強さと金融緩和への転換という株式市場にとって居心地の良い状況は当面続くと思われます。その他の注目材料として、日本では8日の景気ウォッチャー調査、米国では5日のISM非製造業景況指数、7日の貿易収支、欧州では6日のユーロ圏小売売上高、ドイツでは7日の鉱工業生産、中国では8日のCPIなどが挙げられます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL：https://www.alamco.co.jp

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第301号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

本資料は、朝日ライフ アセットマネジメント（以下、「当社」といいます。）が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。

2023-02-19